

## 分科会より報告

**司会(江藤)** 「特別支援教育」、「気持ちを語るとは」、「スクールカウンセラーと教職員との連携」の順番で報告していきます。では大坪先生、お願いします。

### 第一分科会「特別支援教育」より報告

**大坪** 第一分科会の「特別支援教育」の報告をさせていただきます富士見中学・高等学校の大坪です。よろしくお願いします。

高橋先生も含めて11名というこじんまりとした会でしたが、まず最初に皆さんから一言ずつ自己紹介をいただきながら、障害者の方とのかかわりの経験談とか、そのような話をいろいろとしていただいて、中にはいま学生さんで支援学級の補助員としてボランティアに行っている方、あるいは学級支援員の方もいらっしゃって、具体的なお話を聴くこともできました。

その後、特別支援教育ということですが、不登校もその部分と少しかかわってくるのではないかとということで不登校の話になり、小学校まではいろいろな特別支援の対応は充実しているんだけど、中学校になると教科担任制になってしまって、そういうシステムがなかなか確立されていないところから、小学校のときには不登校は顕在化しないのだけれども、少しずつ芽が出てきて、そして中学校に入ってくると不登校が顕在化し、夏休み以降増加してくると状況がある。そういうときに必要になってくるのが、カウンセラーとのかかわりだという話になって、カウンセラーとのかかわりはほかの分科会のテーマでしたが、そちらのほうに話が逸れて、そのへんの話をししてからもう一度話が元に戻りました。

特別支援教育と不登校というところを考えたときに、障害を持った児童ないし生徒が不登校になる場合に、やはり自分の障害と健常者との壁とか、そういったところから不登校になっていく場合もあるのではないかと私が質問したのですが、そこで高橋先生の奥様が、実は特別支援の専門家でいらっしゃって、本校の卒業生で今回参加されていたのですが、最後に次のようなお話をいただきました。

やはりその障害者自身の問題もあるのだけれども、その障害者がそういう気持ちを持ってしまうのは、障害者を取り込む周りの環境に大きく左右される。他がどう見るかということが、結局その障害を持った子たちがどう感じるかということになっていくので、やはりみんな違って当然で、みんながみんなそれぞれ違うのだということを、もう少し大人がいろいろなところを見ながらコーディネートしていかなければいけない。各学校にコーディネーターとかもいるだろうけれども、そのコーディネーターが中心になって、障害者との壁ができないような環境づくりをしていくのが重要なのではないか、というお話でした。

時間が少し過ぎたわけですが、一応そのようなかたちで話が盛り上がったところで終わったというところです。以上簡単ですが、第一分科会の報告でした。(拍手)

**司会** ありがとうございました。では続いて第二分科会の「気持ちを語るとは」より、滝沢先生、ご報告をお願いいたします。

## 第二分科会「気持ちを語るとは」より報告

**滝沢** 第二分科会の報告を行います。記録の滝沢でございます。第二分科会が一番人数が多かったのではないかと。人数を数えようと思ったのですが、視界に入らないぐらいいっぱい、30人近くでしょうか、それぐらいの参加者でした。

「気持ちを語るとは」というテーマで、最初司会の真壁さんのほうから担任をしている生徒を理解したいとは思っているが、なかなか理解できない。学校の先生方は生徒を見る目が非常に鋭いところを見て観察していらっしゃると伊藤先生がおっしゃって、でもそれが公立学校では校長先生の異動等で体制が大幅に変わるようなこともまま見受けられるという話が出ました。

あと気持ちを語らせたい子どもほど、なかなか口を開かない。ではそういう子どもたちにどうやって語らせるか、口を開かせるかというところ、ツイッターのような交換日記とか班ノートとか、名前はいろいろありますが、そんなものを設ける。あるいは生徒が語る場が大切なのではないかと。では場というのはどういうふうにしてつくればいいのか。

ただ部屋があるだけではなかなか難しいだろう。カウンセラーの先生とか、熱心に推進する人がいて初めて成り立つのではないかと。どなたか民間企業にいらっしゃる方が、学校には行けないけれども塾には通えるような子どもがいるが、そこに何か一つヒントが含まれているのではないかとという話も出ました。

語れる場をつくりたいとは、みんなだれしも思っているけれども、それがなかなか実現しない。ではどうやったらということで、教師はどうしても時間的制約の中で仕事をしたり、あるいは生徒も時間の中で次の授業があったり、次の活動があったり、あるいは帰宅時刻があったりする。だけど思い切ってそこを取り払ってみてはどうだろうか。あるいはしばらく間を置いてからというのも一つの手ではないか。

あるいはまた担任の先生には言えないけれども、若い先生とか、教育実習に来た人とか、カウンセラーとか、人が替わると本音を語ることもよく見られる。子どもの側からすれば、気持ちを語る人を選んでいないのではないかと。たまたま子どもが語らなかったのは、選ばなかったからだけではないかという話も出ました。

あと相談したい、本音を出したい子どもの背中を押してあげる。同時にまたそういう子どもの気持ちの熟成を待つこともわれわれの仕事の中で大切なのではないかと。また後半のほうで学生さんからもいくつか話が出て、学生さんのつい最近の経験等も出て、実際に相談してみたけれども、なかなか思いを理解してもらえなかったような印象を持っていた。

石川県から参加された方が、教師の側からすれば、かつては通用した方策もいまではなかなか通用しないことが多くなってきた。ではソフトムードだけでいいのかということ、現場はなかなかそううまく行かない。ルールや秩序というものもある程度必要だろうしというお話も出ました。



人間関係を大切にすることと、それを土台にして子どもたちと一緒に夢を語る、未来像を語る、あるいは気持ちを受け止めるというところで、初めて子どもたちが本音を語る、気持ちを語るというところが出てくるのではないかということで、話が終わったわけではないのですが、時間がまいりましたので、そこで終わりにになりました。以上です。(拍手)

**司会** ありがとうございます。では最後に第三分科会「スクールカウンセラーと教職員との連携」ということで、松重先生、よろしくお願いします。

### 第三分科会「スクールカウンセラーと教職員との連携」より報告

**松重** 「スクールカウンセラーと教職員との連携」ということで、記録をさせていただきました相模女子大学高等部の松重と申します。

この会では全部で20名の参加がありました。学生さんからベテランの先生方までおりまして、その中でまず伊藤先生の講演を受けた感想を一言ずつ自己紹介とともに言っていました。その中で、若手の先生から子ども目線に立っているとは思っていたけれども、実際教員になってみると子ども目線になりきれず、また教員との連携等があって難しいといった感想もありました。

実際に本題に移りまして、カウンセラーと教職員との関係ですが、まずは杉澤先生からカウンセラーの仕事とはどのような実態になっているのかについてのお話があり、また東京都と神奈川県の場合など各先生から挙げていただきました。これらのお話から現在カウンセラーは、本人はもちろんのこと、保護者、また若手教員などからも求められる存在になっており、ものすごく需要が高いということです。

また学校全体との連携としては、各学年に1名の教員、養護教諭、カウンセラー、管理職などが毎週委員会というかたちで情報を共有し合っている。もちろんカウンセラーから担任へ個別に連携を取っているというかたちで現在では連携が取れているということのお話がありました。

さらに、コーディネーターの役割や虐待についての話も少し出ましたが、最終的には時間となりましたので途中で話が終わった部分もあります。

最後に、情報共有はすごく大事だということで話が進みましたが、情報を共有しすぎてしまうと逆に守秘義務が守られていないのではないかというご質問もありましたが、そこはお互いプロですので、守秘義務をしっかりと守ったかたちで生徒と保護者と教員と連携を取れるようにしたいという話で終わりました。またぜひ来年もこのような会があるといいなという話もありました。以上です。(拍手)

**司会** ではせっかくですので、三つの分科会の報告を受けてぜひこの場でちょっと聞いてみたいとか、いま出たことでちょっとこれはどのようなことなのか、などご質問等がありましたら、ここで受けたいと思いますが、どなたかありますでしょうか。よろしいですか。大丈夫ですか。

では最後になります。最後の明大教育会の事務局長を務めています明治大学文学部教授の別府昭郎より最後に御礼を申し上げます。別府先生、お願いいたします。

## 別 府 昭 郎 明治大学教育会事務局長 挨拶

**別府** どうもありがとうございました。明大教育会と一緒に立ち上げた人間として、いろいろ感じるがありますが、特に内容といい、形式といい、十分僕は理想的なカタチにだんだんなりつつあると思っています。内容というのは、今日ありましたように伊藤先生の話、あるいは各学校で特別支援とか、そういうハンディを持った子どもたちをどういうふうにやっていくかということから始まって、教科をどう教えるか、子どもたちにどう対応するかということも含めて、カタチにだんだんなりつつあると私は感じています。

形式といいますと、これは教育会の形式ですが、一応教職課程とは別組織として、広い意味での明治大学の一つの組織として、自立運動をする。その自立運動の方向にどんどんと進みつつあると私は思っております。ですから理想に近いカタチで、進みつつあると感じています。

いま松重先生の話にありましたが、11月20日に、総会、研究大会を考えております。また違ったカタチで研究大会も持とうと思っておりますので、ご予定くださればありがたいと思います。

それからもう一つ、明治大学教育会はホームページを持っています。ホームページは資格課程のホームページから入れます。ですから広くいえば明治大学、それから資格課程のホームページに入っていて、教育会のホームページ、最初に石崎会長のご挨拶が載っています。それを見ていただければありがたいと思いますし、今後いろいろな行事、お知らせをこのホームページを使ってやる場合もありますから、ぜひご覧いただければありがたいと思います。

また先ほど言いましたように11月20日、これは研究大会と総会になります。そういうことをお知らせして、今日お集まりの先生方、本当にありがとうございました。これからまた教育会がどんどん発展していくように、みんなで盛り上げていきましょう。よろしくお願いします。(拍手)

**司会** ありがとうございました。私のほうから連絡が5点あります。最初の2点は、いまの別府先生からもあったとおりですが、次回研究大会、および総会が11月20日土曜日に実施されます。内容につきましては、近日中にホームページにアップをさせていただきますので、ぜひそちらをご覧くださいと思います。

そのホームページですが、資格課程事務室の、さらにいくつか下の階層になりますので、何回かクリックしないと届かないというページになりますので、何とかそこまでたどり着いていただければと思っております。

それからいまお手元の資料にアンケートがあると思います。ぜひこちらをご記入いただいて、次回やってほしいテーマ、こんなことを聞いてみたいとか、いろいろご意見があ

と思いますので、そちらもお書きいただいて帰りに出口のところでお出しいただければと思います。

基本的には教育会に参加されている、あるいは学生さんの方がこの場に来ていると思いますが、もし教育会に実はまだ入っていないとか登録していないという方がいらっしゃいましたら、外の受付のところに登録用紙がありますので、ぜひそちらにご記入のうえ、教育会にご登録いただければと思います。

最後になりますが、本日オランダ戦があるのですが、せっかくこのようにみんなで集まった機会でもありますので、このあと簡単に喉を潤せればと思っております。必修ではありませんし、義務でもありません。またテレビのある部屋でもないのですが、よろしかったらぜひお付き合いいただければと思いますので、もし行かれる方がいらっしゃいましたら、終わりましたら前のほうにお集まりください。

では本日、長時間にわたりいろいろと不手際もあったかもしれませんが、無事にここまで終えることができました。皆様のご協力のおかげと思っております。どうもありがとうございました。また次回よろしくお願いいたします。(拍手)